

3 さぬき・大川支部の提案について

単元 「三角形と四角形」(第2学年, 少人数指導)

(1) 提案の概要

三角形や四角形をそれと類似した図形ときちんと区別できないという実態調査の結果を受けて, 本単元では, 三角形・四角形の弁別・定義付けの学習を2時間に拡大して行っている。

また, 単元後半では, 一般四角形を1本の直線で分割すればどのような図形ができるかを調べる活動を「分離型」と「協力型」のコースに分けて実践した。

子どもは, 強い意志をもってコースを自己選択し, 熱心に学習に取り組んだ。自分の直線の引き方を説明するためには, 今年から上の学年に移行した「辺」「頂点」といった用語があった方が便利なので, ここでは指導した。



(2) 討議の概要

- ・ 本時の目標や活動は, 「数学的な考え方」よりも「知識・理解」の観点にかかわるものではないのか。

三角形や四角形を指定された形に分割するには, どのような1本の直線を引けばよいかを考えることや「このようにすると…」と論理的に説明することは考え方といえるであろう。もちろん, 概念理解も関連するものである。

- ・ ここでの少人数指導は, 「習熟度」に応じたというよりも「意欲・関心」に応じたものではないのか。

「習熟度別少人数指導」と考えて実践したものではあったが, 取り組みたい課題を提示し子どもに自己選択をさせた点から言えば, 「課題別少人数指導」と言えるかもしれない。

- ・ 本年度から「辺」「頂点」という用語が移行され不便を感じているが, その使用をどのように考えているのか。

必ず身に付けさせなければならない学習内容ではないが, 子どもの学習状況によっては使った方が望ましいときや, そのクラスの学習のねらいとして位置付けた方が望ましいときもあると思われる。

- ・ 「発展的な学習」をどのように考えているのか。「わかりやすく説明できる」というのは発展的な学力なのか。

単にコミュニケーションの力を指すのではなく, しくみや手続きを簡潔・明瞭・的確に説明する力を指すものであろう。絶対評価に向け, 学習状況の判断基準を設定するに当たっての課題である。今後も検討を深めたい。

(3) ご指導の概要

図形の向きや位置にとらわれることなく三角形や四角形を弁別することや, 別の言い方・表し方で図形を特徴付けて説明することなどが, この実践で培いたい「数学的な考え方」であろう。図形を直線で切ることによって, 子どもは三角形や四角形の弁別についての理解を深めたであろうし, こうした学習場面を通して, 筋道立てて説明できる子どもを育成することは大変重要である。

少人数指導の意味や価値を考えて, より適切な評価規準や支援の在り方を考えていくことが今後の課題である。